

高校生の採用活動解禁

景況上向き一部に明るさ



来春卒業予定の高校生を対象にした佐賀鉄工所の就職試験会場。適性試験や一般常識、作文などを実施した—佐賀市のグランデはがくれ

来春卒業予定の高校生を対象とした企業の採用活動が16日、全国一斉に解禁になった。県内でも就職試験がスタート。景況感が上向いて前年より採用枠を増やす企業も出ており、「業種で差があるが、求人のは不足は昨年よりいいようだ」（県学校教育課）という状況。生徒たちは内定獲得を目指して試験に挑んだ。

調剤薬局運営や介護用品レンタルの大平（小城市）には5人が受験。一般常識や面接などに挑んだ。採用予定数は大卒者と合わせて20人。前年より5人増やした。副島広幸社長は「競合他社の大企業が大量採用にかじを切った。今

のうちに優秀な人材を確保しておきたい」と話す。

一方、採用数を減らした企業もある。自動車用ボルト製造の「佐賀鉄工所」（本社・佐賀市）は11人（今春実績）から3人程度に減らした。担当者「円高で取引先の生産拠点が海外に移転したことが大きい。実態経済が回復に向かうか先行きも見えないから」と語った。試験には6人が挑んだ。

佐賀労働局によると、7月末現在の、県内の高校生就職希望者は前年同期比5%減の2620人、求人数は同31.5%増の1472人。有効求人倍率は、前年同期比0.15倍増の0.56倍。県教委学校教育課は「過去10年で最も高い就職内定率だった前年の98%を超えるよう例年以上にきめ細かく支援したい」と話す。